平成16年8月

湯築城だより 5

YUZUKIJO NEWS Vol.5

特集！河野氏と海賊衆

瀬戸内海は、島々が点在し、狭い海峡や瀬戸に複雑な潮が流れる独特の世界です。平安時代末期から鎌倉時代にかけて、海の武士団として成長した河野氏は、戦国時代には芸予諸島の有力な海賊衆、三島村上氏のうち、能島村上氏、来島村上氏と強く結びついていきます。

芸予諸島に多く残る海賊の城跡は、「海城」と呼ばれています。

「伊予国嶋々古城之図」。江戸時代中期に松山藩の兵学者、野沢象水（1747～1810）によって描かれた最古の海城の分布図です。本来小さな島である、能島や来島が大きくデフォルメされて描かれ、至る所に海城のしるしがつけられたこの地図は、中世という時代とともに姿を消した海賊たちの世界を、今に伝える貴重な資料です。

伊予国嶋々古城之図　江戸時代中期　個人蔵　　（愛媛県歴史文化博物館 提供）

●主要な海城の調査成果●●●●●

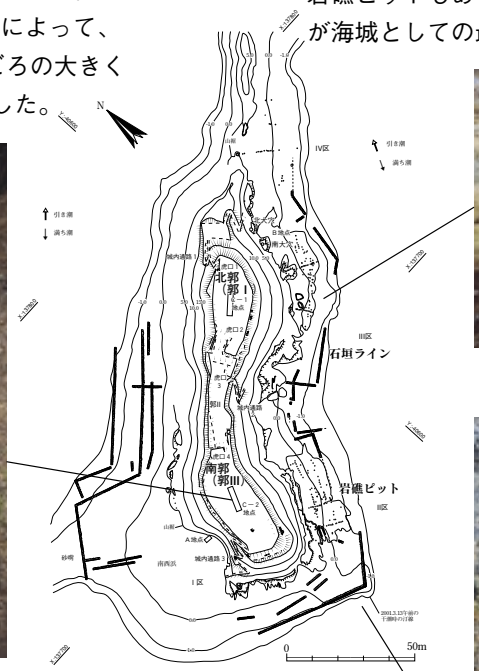
大変潮流の早い海峡や瀬戸に存在する小さな島全体を城郭として利用した海城は、芸予諸島独特のものです。遺跡として残る、代表的な海城を紹介しましょう。

甘崎城跡（上浦町）

甘崎城は、鼻栗瀬戸を北に抜けた大三島の東に位置し、周囲約600m、標高19.9mの島全体を城郭として利用した海城です。

郭の一部と海岸部の発掘調査によって、中世と16世紀末～17世紀初頭ごろの大きく2つの時期の遺構が確認されました。

南郭の礎石建物



『しまなみ水軍浪漫のみち文化財報告書
―埋蔵文化財編―』より

中世の甘崎城

南郭では、掘立柱建物の柱穴を確認しています。東海岸には岩礁ピットが集中しており、なかには木柱の残る岩礁ピットもありました。出土遺物からみて、16世紀代が海城としての最盛期と考えられます。

縦列の岩礁ピット

岩礁ピットに残る木柱

16世紀末～17世紀初頭ごろの甘崎城

北郭と南郭では、整地層をはさんで上下に2～3時期の礎石建物が確認されています。南郭で見つかった礎石建物の一つは、瓦葺きの建物であったようです。

16世紀末～17世紀初頭ごろ（天正年間後半期～慶長年間）には瓦葺き建物が建てられ、そのころ、海岸部に石垣が築造され、甘崎城の大改修が行われたと考えられています。

東南隅の石垣

能島城跡（宮窪町）

撮影者：添畑 薫氏

能島村上氏の本拠。能島・鯛崎島を城郭化しています。

鹿島城跡（北条市）

来島通康の子、得居通幸の居城

来島城跡（今治市）

来島村上氏の本拠で、来島海峡の西に所在する周囲約850ｍ、標高約41ｍの来島を城郭化しています。

『しまなみ水軍浪漫のみち文化財報告書
ー埋蔵文化財編ー』より

海蝕テラスも平坦に加工され利用されていました。

[海蝕テラス]
満潮水位付近にある、自然の侵蝕によって形成された幅の狭い平坦地

島の北側中心に岩礁がみられ、縦列を含む多くの岩礁ピットが確認できます。

谷部では、礎石建物などがみつかり、15世紀から近世以降まで整地を繰り返しながら土地を利用していたようすが明らかになりました。

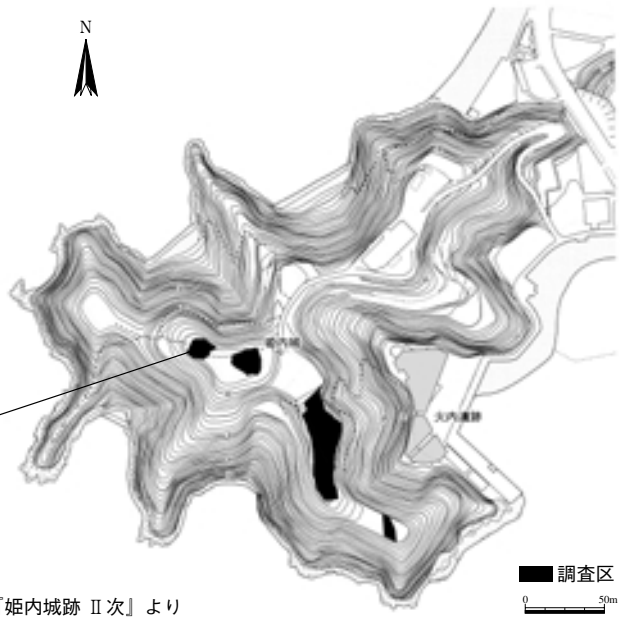
姫内城跡（吉海町）

姫内城は、大島の南西部、来島海峡を一望する位置にある海城です。

丘陵部山頂（標高43m）から南東側と西側にのびる郭の一部について発掘調査が行われました。

郭からは、庇をもつ大型の掘立柱建物などが見つかり、15世紀後半～16世紀末ごろまでの遺物が出土しています。

大型の掘立柱建物

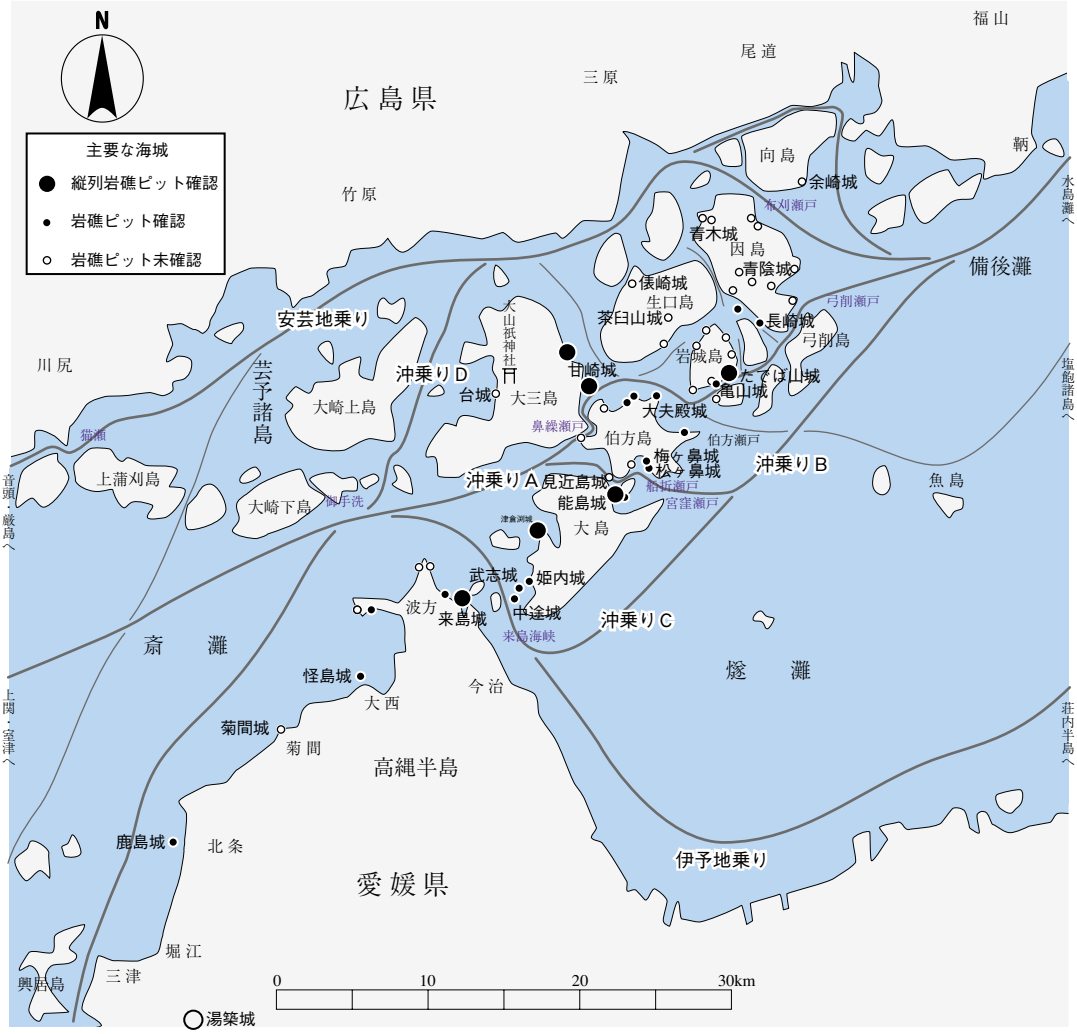


『姫内城跡 Ⅱ次』より

●海城の分布と瀬戸内海航路●●●●●

海城の周囲には岩礁があり、そこに岩礁ピットと呼ばれる柱の跡が残っています。特に縦列岩礁ピットの分布から、三島村上氏は独自の技術と抜群の海上機動力で、航路支配を実現していたと考えられます。

海城の分布と瀬戸内海航路



[縦列岩礁ピット] 海岸線とほぼ直角に交わる列状の岩礁ピット。
繋船(けいせん)施設と推定され、芸予諸島周辺の主要航路上に存在する一部の主要城郭でのみ確認できる。

海賊と流通

芸予諸島の海城やその周辺からは、輸入陶磁器(とうじき)や備前焼(びぜんやき)など、広域に流通した焼き物が、数多く出土します。

海賊たちは、略奪行為や駄別料(だべつりょう)の徴収など、海上交通や輸送をさまたげる側として考えられがちでした。しかし最近では、海賊の上乗(うわの)りや、過所旗(かしょき)などの通行許可証を与えることで、通行の安全を保障したことが注目され、むしろ海上交通や輸送にプラスに作用した面もあることが指摘(てき)されるようになっています。

海城やその周辺から出土する輸入陶磁器や備前焼は、ひと昔前には略奪品などど言われたこともありましたが、現在では、海賊たちが治めた地域が、商品流通の拠点として機能していた証と考えられるようになっています。

●河野氏と来島村上氏●●●●●

戦国期の河野氏と最も深いつながりのある海賊として、来島通康を挙げることができます。来島通康は、来島村上氏の当主であり、戦国期三島村上氏の重要人物でした。

通康は、天文11（1542）年の「天文伊予の乱」（※１）では、弾正少弼河野通直の娘婿として騒動の中心となります。その後は、河野通直や通宣に仕えるなど、重臣として活躍し、湯築城内に居所を構えていたとも言われています。また、厳島合戦（※２）で安芸の毛利氏に味方し勝利したことから、毛利氏からも厚い信頼を得ています。

来島通康が重臣となった16世紀中葉以降、湯築城の外港としての「堀江」の存在が確認できるようになります。来島氏の水運力は、河野氏の軍事や輸送に大いに役立つものでした。湯築城跡の発掘調査によって、来島通康が活躍した16世紀中葉に非常に多くの輸入陶磁器がもたらされていたことがわかりました。

しかし、通康の跡を継いだ通総は、兄得居通幸とともに河野氏を裏切り、西方進出を計っていた織田信長方に味方します。これが河野氏衰退のひとつの原因となりました。

（※1）**天文伊予の乱**…娘婿の来島通康を後継としたい弾正少弼通直と、通政を押す家臣団が対立し争いとなった伊予国の内乱。天文11（1542）年と推定されている。

（※2）**厳島合戦**……主君であった大内氏を滅ぼした陶氏と、山陽で勢力を拡大していた毛利氏が、弘治元（1555）年に厳島とその周辺で戦った合戦。毛利氏が中国地方を制覇するきっかけとなった。

三島村上氏関連年表

年　号	西　暦	事　　項
貞和5	1349	東寺弓削島荘の警固料として、「野島」に三貫文を支払う
応永12	1406	これ以前に、忽那島の一部を能島氏が知行していたことが確認できる
応永25	1420	村上右衛門尉（来島系か？）、河野通元から弓削島荘の所務職を得る
正長元	1428	村上吉資（因島村上氏）が、備後国多島の地頭職を得る
永享6	1434	伊予、備後などの海賊が遣明船を警固する
宝徳元	1449	金蓮寺（因島市）棟札に、村上吉資が因島領主として記載される
享徳3	1454	遣明船の候補として「備後院島（因島）熊野丸」「竈関薬師丸」が挙げられる
康正2	1456	村上治部進（来島系か？）が、右衛門尉から弓削島荘所務職を引き継ぐ
寛正3	1462	海賊能島氏が弓削島を押領する
応仁元	1467	応仁・文明の乱
永正5	1508	大内氏が因島村上氏に警固を依頼する
大永4	1524	大浜（今治市）八幡宮棟札に、「在来島城村上五郎四郎母」ほか大浜地頭村上吉任などが記載される
天文4	1535	「温付堀」の普請(湯築城の外堀築造)
天文10	1541	大内氏勢が芸予諸島を攻撃し、来島村上氏ら応戦する
天文11	1542	天文伊予の乱
弘治元	1555	厳島合戦
弘治4	1558	筑前国箕島合戦が、大友氏と毛利氏の間で行われ、村上氏が参戦する
永禄10	1567	来島通康死去
永禄11	1568	鳥坂峠合戦
永禄年間		能島氏が、平戸の松浦隆信と杉次郎左衛門尉へ紋幕（通行許可の旗）を配布 この頃、来島氏が伊予と堺との間に定期航路を運航
天正2	1574	上関の村上武満（能島系）が、赤間関問丸佐甲氏の関税を免除
天正4	1576	木津川口合戦、村上氏が合流した毛利水軍が織田水軍に勝利する
天正6	1578	木津川口合戦、九鬼水軍の大安宅船により毛利水軍が敗北する
天正9	1581	能島氏が厳島神社神官、雑賀衆向井教右衛門に紋幕を与える
天正10	1582	来島村上通総が、兄得居通幸とともに織田方へ寝返り、河野氏、能島村上氏による討伐が始まる
天正11	1583	村上通総と毛利勢との間で鹿島沖合戦
天正13	1585	村上通総伊予帰国、能島の村上元吉、赤間関問丸佐甲氏に紋幕を与える 小早川隆景の伊予攻めにより湯築城開城、小早川氏が伊予拝領、村上通総と得居通幸も伊予国内に所領を得る
天正14	1586	宣教師たちが「能島殿」と会い、紋幕を与えられたことをルイス・フロイスがイエズス会に報告
天正15	1587	秀吉の九州平定に来島・得居・能島氏が動員される
天正16	1588	海賊禁止令
慶長2	1597	慶長の役、来島通総戦死
慶長5	1600	関が原の合戦、毛利氏領地が防長２国に限定され、能島村上氏、因島村上氏、領地を移される
慶長6	1601	来島村上氏、豊後国森へ移封
慶長16	1611	能島村上氏、因島村上氏、毛利氏の御船手組とされる

海賊達の船

中世には、水運の発達とともに、造船技術も発展しました。

弥生時代以降、鎌倉時代まで、大型の船は、丸木をくりぬいた材を組み合わせて船底に使用し、その上に舷側板を設けた準構造船が用いられてきました。しかし、室町時代には、船底まで板材を用いた構造船が造られるようになり、千石以上積載できる大型船が登場したのです。

造船技術が発展することで、いろいろな形態の船が造られるようになりました。海賊たちが使用したと伝えられる船を紹介しましょう。

安宅船

戦国時代の最強・最大の軍船です。五百石積から千石積以上のものまであり、船首は箱造りで、上部は総矢倉で囲み、大筒(大砲)などの武器を備えていました。

関　船

関船の名は、海の関所に所属した船に由来するといわれます。戦国時代には安宅船につぐ有力な軍船となり、安宅船より小型ですが、鋭い船首と細長い船型で、スピードを誇った船です。別名「早船」と呼ばれました。

小　早

関船を小型にしたもので、偵察・監視や連絡用として使用されました。防御力は関船よりも劣り、上部に矢倉がなく、低いついたて状の垣立てをめぐらせていました。

(写真 宮窪町教育委員会 提供)

参考文献　石井謙治著『図説 和船史話』至誠堂1983年

親子で学べる湯築城講座　「『湯築城の歩き方』ガイドブックを作ろう!」

7月24日（土）、25日（日）に湯築城講座を開催し、小学校5・6年生親子計26組の参加がありました。

当日は、親子でガイドブックと探検地図を片手に湯築城の中を探検し、資料館や武家屋敷などでクイズや間違い探しをしながら、湯築城のおすすめポイントが入った『湯築城の歩き方』ガイドブックを作りました。

途中、昔の遊びや道具の体験コーナーでは、双六（すごろく）や羽子板（はご）、天秤棒（てんびん）や石臼（いしうす）引きに挑戦し、職人さんよるヤリガンナの実演も見学しました。

とくに好評だったのが、小袖（こそで）、直垂（ひたたれ）、甲冑（かっちゅう）の着付け体験で、「甲冑は着てみると思ったよりも重かった」という感想も聞かれました。

暑い中の講座でしたが、湯築城を探検してみて「湯築城のことはあまり知らなかったけど、この講座でよく分かった」「夏休みの自由研究にしたい」と、夏休みの一日を親子で楽しんでいただけたようです。

平成16年度湯築城資料館企画展

「河野氏と海賊衆」 開催中!

瀬戸内海の芸予諸島を中心に、室町時代から戦国時代にかけて強大な勢力を誇った海賊衆村上氏。近年調査が行われた甘崎城跡、来島城跡など海賊衆の遺跡、海城の発掘調査成果を展示しています。

期　　間　7月6日（火）～10月31日（日）
会　　場　道後公園湯築城跡　武家屋敷2
開館時間　9:00～17:00
休 館 日　月曜日（休日の場合は翌日）
入 館 料　無料
主　　催　愛媛県教育委員会
　　（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター

●ボランティアガイドの声

河後森城跡の見学会に参加したボランティアガイドより

４月19日、湯築城跡ボランティアガイドの有志で、愛媛県松野町にある河後森城跡を訪れました。国指定史跡である河後森城跡は、湯築城と同じ頃の城跡ですが、山城ということでまったくタイプの違う遺跡です。初めての山城、ほかのガイドさんたちと一緒の見学も初めてで、とてもわくわくしました。当日は、なんと土砂降りの大雨。でも、そのような天候にもかかわらず、松野町の担当の職員の方が丁寧にわかりやすく説明してくださり、とても感激しました。

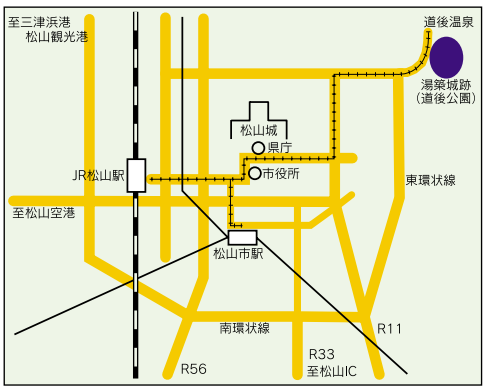
本年4月から5月にかけて開催した「道後公園（湯築城跡）ボランティアガイド養成講座」を受講終了した方のうち18名が、6月1日付で当ボランティアガイドに委嘱され、湯築城資料館の新戦力としてご活躍されています。

武家屋敷を区切る「柴垣」

●湯築城の自然ひとコマ●

武家屋敷を区切る塀（へい）は、発掘調査の結果から土塀（どべい）が復元されましたが、土塀と確定できなかった箇所については、古い絵巻物にしばしば描かれる柴垣（しばがき）としました。

柴垣は、粗朶（そだ）と呼ばれる雑木の枝などの束（たば）を、丸太の柱に割竹（わりだけ）とシュロ縄で編み止めた簡易な垣根（かきね）です。粗朶には、秋の七草のひとつ、「ハギ」、「モウソウダケ」や「エゴノキ」など、湯築城跡にもある身近な植物の茎（くき）や枝を使っています。



＜＜利用案内＞＞

○公園
　常時開園（24時間OPEN）入園料無料
○展示施設
　入館料無料
　9時～17時
　休館日/毎週月曜日（休日の時は翌日）12月29日～1月3日

■編集後記

今回の親子で学べる湯築城講座は、ガイドブック作りと体験を組み合わせた盛りだくさんな内容。着付けの練習や、ガイドブックの作成など準備は大忙し。当日は、猛暑の中、参加者もスタッフも大汗をかきましたが、衣装を着た子供たちがうれしそうにポーズを決めているのを見て、「やってよかったなあ」と実感しました。（S）

湯築城だより　5号

編集・発行　湯築城資料館
〒790-0857
愛媛県松山市道後公園
TEL　089-941-1480
FAX　089-941-1481
http://www11.ocn.ne.jp/~yuzuki-j/yuzuki_top.htm